

特集 戦後80年・「上越市非核平和友好都市宣言」30周年

戦争の記憶を語り継ぎ、次代へつなぐ

■問合せ…多文化共生課 (☎025-520-5681)

今年、昭和20（1945）年8月15日の終戦から80年。また、平成7（1995）年12月20日に上越市が恒久平和に向けた努力を続けることを誓った「非核平和友好都市宣言」をしてから30年の節目を迎えます。世界各地では、現在も紛争によって多くの人の生命がおびやかされており、戦争は遠い昔の事ではありません。これまでの悲劇を繰り返さないよう、次の世代に平和をつないでいくため、この節目の年にあらためて平和の尊さについて考えてみませんか。



宣言など詳しくは



写真：平和記念公園「平和友好像」

市内の戦争にまつわる出来事

市内で起きた戦争にまつわるつらく悲しい出来事にあらためて目を向け、風化させることのないよう、次の世代へ語り継いでいきましょう。

直江津捕虜収容所

太平洋戦争中の昭和17年、現在の川原町に捕虜収容所が開設されました。開設直後にはオーストラリア兵300人が収容され、厳しい寒さと過酷な労働環境、飢えなどにより60人が亡くなりました。終戦時には、他の国の兵士を含め700人余りの捕虜が収容されていたと言われています。また、終戦後に戦時下で国の方針に忠実に従った当時の収容所職員が裁判でその責任を問われ、8人が死刑となりました。

こうした悲劇を後世に伝え、未来への平和と友好を誓うため、市民と市が協力し、平成7年、収容所跡地に、「平和記念公園」を整備しました。毎年8月には、亡くなったオーストラリア兵と収容所職員を追悼し平和への思いを新たにす「平和の集い」が開催されています。



平和記念公園「波の旅人像」

直江津空襲

昭和20年5月5日、アメリカのB29爆撃機が直江津の工場地帯を標的に爆弾を投下し、近くの水田や倉庫に落ちました。この爆撃により、農作業をしていた人など3人が亡くなり、5人の負傷者を出しました。

空襲からしばらく経過した昭和55年には三ツ屋地内で、平成6年と18年には安江地内で、それぞれ不発機雷が見つかり、自衛隊によって処理されています。

被弾の地に近い黒井公園には慰霊碑が建てられ、毎年5月5日に「直江津空襲と平和を考える会」による慰霊の集いが行われています。



不発機雷の処理

名立機雷爆発事件

終戦からしばらくたった昭和24年3月30日、名立小泊の海岸に国籍不明の機雷が流れ着きました。住民や子どもたちが見守る中、警察官が機雷を沖へ押し出そうと海へ飛び込んだ直後、機雷が大きな音とともに爆発し、小・中学生と幼児56人を含む63人も人が亡くなりました。この事件を風化させることなく平和を守るための大切さを伝えるため、毎年3月に「名立・平和を願う日」として、慰霊の取り組みが行われています。



地藏尊と爆発の地を示す石碑

－戦争体験者の想い－

市内で実際に戦時下の暮らしを体験したお二人から、ご自身の体験と平和への想いをお聞きしました。

戦争で幸せになる人は いません

川上 紀美栄さん(昭和15年生まれ)



父は私が2歳半のとき、中国に出征しました。私たち家族に頻繁に手紙をくれていましたが、私が4歳のときに父は戦死しました。私は幼かったので、父がどんな顔をしていたのか、どんな声をしていたのか覚えておらず、とても心残りです。

父の出征・戦死によって、母はとても苦勞をしていました。子育て、農作業、家事、学校行事などを一人で務め、日頃は気丈に振る舞っていましたが、ひっそりと涙している姿を見たのは1度だけではありません。

戦争は人災であり、人の運命を狂わせてしまいます。幸せになる人なんていません。若い皆さんには、物事の正しい考え方、正しい信念を持ってほしいです。また、そうした価値観が共有される社会であり続けてほしいと思います。



父から届いた手紙

自分の命を大事に してほしい

外ノ池 一さん(昭和2年生まれ)



昭和17～23年の間、在学していた高田師範学校で戦中と戦後両方の教育を経験しました。戦中の師範学校は全寮制で、軍隊のような上下関係と厳しい寮則のもと、軍国主義、愛国主義的な教育を受けていました。学徒動員が始まると授業は休止となり、私たちは軍需工場で作業に当たりました。終戦後は教育方針が平和主義的なものに大きく転換されました。私たち学生だけでなく、先生方も戸惑っておられたと思います。

次代を担う皆さんに2つお伝えしたいです。1つ目は、平和で世界有数の経済大国である日本を作り上げた先人への感謝の気持ちを持ち続けてもらいたいということです。2つ目は、自分の命は国や親や他人のためのものではなく、自分のものであり、命を大事にしてほしいということです。



空襲を避けるため窓に墨を塗った高田師範学校

戦争体験者の生の声をお聞きください

年々薄らいでいく戦争の記憶を後世に残し伝えることを目的に、戦争を体験した皆さんのお話を動画で公開しています。



－次代へつなぐ－

中学生の 広島平和記念式典派遣事業

非核平和友好都市宣言の趣旨を踏まえ、毎年8月6日に広島市で行われる平和記念式典に市内中学校の代表生徒を派遣し、核兵器がもたらした悲惨な歴史や平和の尊さについて認識を深める機会としています。参加生徒は、各学校や市内のイベントなどで派遣報告を行い、平和への願いを広めているほか、市ホームページには参加報告書を掲載しています。



詳しくは



参加生徒から - 坂上さん(高校2年生、令和5年参加) -

2年前に広島派遣事業に参加して、原爆によって当たり前の日常が急に失われてしまったことを学び、改めて平和は尊いものだと感じました。何気ない日常生活が成り立っているのは、平和が身近に存在している証なのだと感じるようになりました。

一人一人が平和について考えることで、世界が平和に近付くことができるのだと思います。そのために、戦争を経験していない私たちは、戦争が人々の生活をどのように変えてしまったのかを知る必要があります。これまでの学びを生かし、身近な平和を守るために、他者の意見や立場を理解し尊重できる人になれるよう努力していきたいです。

